

# 一番茶における摘採適期の予測技術について

農業研究部

## 1. 研究の背景

県内の茶産地では、茶を高品質な時期に出来るだけ多く摘採が望まれている。しかし事前に適期を予測するには長い経験が必要であり、茶園ごとの摘採時期の判断に苦慮しているのが現状である。

そこで、一番茶の摘採適期を予測する方法の確立に取り組んだ。

## 2. 研究成果の内容・普及のポイント

- 1) 摘採までに生葉収量は一日あたり前日比約113%の速度で増加し、NDF（中性デタージェント繊維）は前日対差約0.6%増加、全窒素は約-0.13%の速度で減少することが明らかとなった。これは、主な多収品種である「おくみどり」、「おくゆたか」、「さやまかおり」、「ふうしゅん」、「めいりよく」、「やぶきた」で概ね同じ傾向である。
- 2) 摘採適期を予測するには、3葉期頃に採摘調査を行い、収量、成分を測定し、予測式にあてはめる。
- 3) 予測式については以下のとおりである。

$$X = (\text{目標NDF} - \text{実測NDF}) \div 0.6 \Rightarrow X \text{ 日後に摘採する}$$

たとえば、NDF18%の時期に摘採したい場合、新芽のNDFが12%であれば、 $(18 - 12) \div 0.6 = 10$  で10日後に摘採すればよいというふうに予測する。

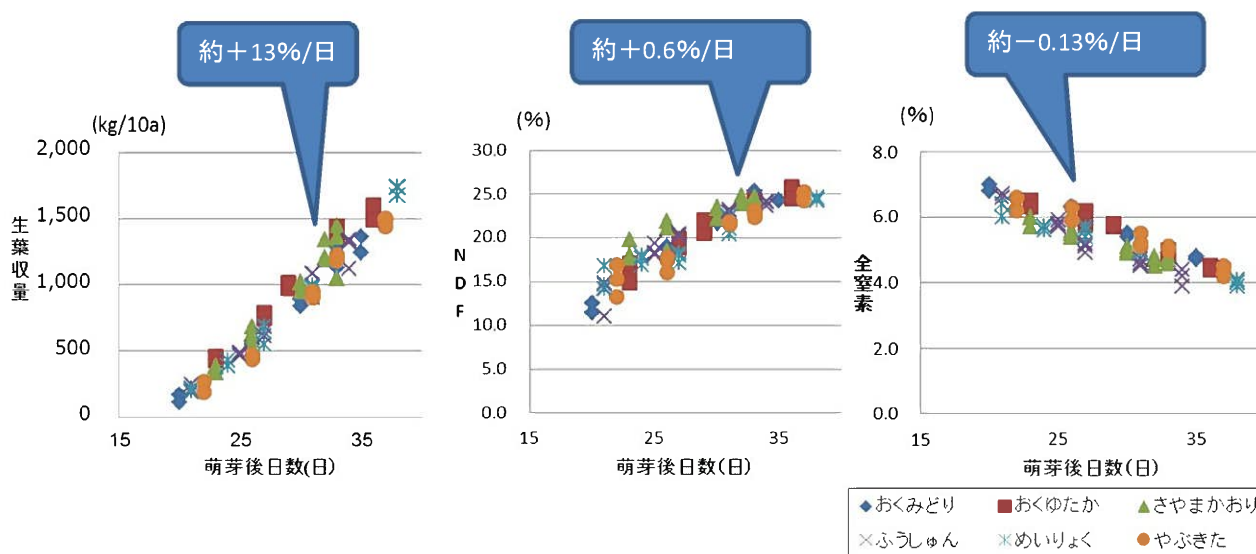


図1 期間中の生葉収量、NDF、全窒素の推移（2015年 豊後大野市三重町）

## 3. 期待される効果

摘採作業を計画的、効率的に行うことが出来るようになるとともに、県産茶の品質向上につながる。

## 4. 担当機関連絡先

農業研究部 葉根菜類・茶業チーム

TEL：0974-28-2082

住所：豊後大野市三重町赤嶺2328-8